病児保育協議会
NEWS
全国病児保育協議会ホームページ　https://www.byoujihoiku.net/

第118号
2024年(令和6年)1月1日
発行人：会　長　杉　野　茂　人
（みるく病児保育センター）
発　行：一般社団法人 全国病児保育協議会
〒860-0059 熊本県熊本市西区野中２丁目 12-26
みるく病児保育センター内
電話・FAX：096-352-5837

新年のご挨拶

(一社)全国病児保育協議会　会長　杉 野　茂 人
杉野クリニック　みるく病児保育センター

あけましておめでとうございます。令和も６年目になりますが、令和元年、2019年末に中国武漢で発生したCOVID-19はあらゆることや場面に変化をもたらしました。私たち病児保育の現場でも、どのように対応したら良いのか、今までの感染対策でいいのか？などみなさま大変苦労されていることかと思います。
しかしながら、見方を変えてみると、色々な感染症が同時に流行していることは大変な事態ではありますが、閑散としていた病児保育室に子どもたちの声が戻ってきたことは、少し明るい光でもあると思っています。

昨年の第33回全国病児保育研究大会は、鹿児島で松田幸久会頭のもと、実行委員やスタッフの皆様のご努力で、現地開催を安全に、盛大に開催することができました。松田幸久会頭をはじめ、関係者の皆様に心より感謝いたします。また、日本中の各施設から参加していただきました会員の皆様には勉強に、観光にと大変充実した大会に満足していただいたことと思います。

今年は、７月14～15日、横井透会頭にご尽力いただき、金沢で第34回大会が開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

さて、本協議会では、１. 組織の強化　２. 病児保育室の安心･安全な運営　３. 病児保育学の確立を掲げて活動しておりますが、各施設、会員の皆様にとっては、特に病児保育室の安心･安全な運営が喫緊の課題かと思います。令和３年より基礎額の見直しが行われましたが、社会情勢の変化などで容易に左右される不安定な経営状況、キャンセルの問題など運営上の課題は解決されていません。
少し前進したのは、今年度よりキャンセルに対して当日キャンセル対応加算金が出ることになったことです。

また、昨年（令和５年）４月からこども家庭庁が発足しました。これに伴い、こども家庭庁管轄で「こども家庭審議会・子ども・子育て支援分科会」が発足いたしました。
すでに、４回の会議が開催され、全国病児保育協議会としても、こどもまん中社会実現のために様々な協議の場に参加しています。

その中で保育所等における保育士の処遇改善に対する議論は進んでいますが、病児保育室の保育士･看護師に対する処遇改善に対しての協議は非常に遅れています。このことは協議会としては引き続き、強く訴えていきます。また、今年度から、「こども誰でも通園制度」が創設されます。制度を行う事業所については、市町村による指定（認可・確認）が必要です。０歳６か月から２歳の未就園児を対象に、月10時間を上限として時間単位で柔軟に利用できる制度です。制度や運用法をみると感染症のリスクを考えなければ、私たちが行っている病児保育室がそのまま運営できそうな制度ではないかと私は考えております。
これまでも、様々な病的状態にある子どもたちの急な一時預かりに対応してきた実績があるからです。
このように、病児保育室の様々な可能性については子ども家庭庁の会議の中でも提言して行きます。
そして、私たち病児保育室は地域の子育て支援の中核として機能できると強調し続けていきたいと思っています。

皆様におかれましても各ブロックで、地域の特性などを考慮し、病児保育室の様々な在り方については、協議して頂けたらと考えます。

最後に繰り返しになりますが、７月には第34回全国研究大会が金沢で開催されます。是非多くの皆さんのご参加、ご発表をお待ちしております。更に論文発表の場として機関誌「病児保育研究」があります。こちらにもぜひ積極的に皆様の投稿をお待ちしております。

今後も我が国の少子化の流れは止まらないと思われますが、一人ひとりの子どもたちの健全な成長のために病児保育施設は無くてはならないものとなっています。それぞれの地域で、それぞれの施設がこれらの目標に向かって活躍できるよう、そしてさらなる病児保育の充実と社会的貢献ができますように、これからも皆様と共に、頑張りたいと思います。

子どもを受けとめるということ

副会長　佐藤　里美
さとう小児科医院　病児保育室バンビーノ

コロナ禍で利用者が激減した３年余りがずいぶん昔のように感じられます。昨年はコロナ流行前を上回るほどの利用希望者があり、病児保育なりの活気が見られました。合わせてこれまでにないほど一度に様々な感染症が流行し、病児の受け入れにはどの施設も苦慮されたのではないでしょうか。「病児保育に行くと違う病気をもらう」という保護者の心配の声は最近少なくなり、「病児保育は感染対策をしっかりしてくれて、かえって保育園より安心できる」という声も聞かれるようになりました。これもコロナ対策をしっかり行い、我慢して過ごした日々がプラスに働いた結果であると思っています。

さて利用者が多くなると多様な子どもの姿が見られます。ある日利用の小学生が、あれもやりたい、これもやりたいと狭い保育室の中を忙しなく動き回り、大声で叫んだり笑ったりしていました。「赤ちゃんが眠そうだからね。」と声を掛けても受け入れてもらえません。困ったなあと思っていると、「この子なりに自分の気持ちをどうしていいのかわからないのかもしれませんね」とそっと語った保育士さんの言葉が印象的でした。他にも「些細なことで怒り出す、泣き出す」「今は遊びたくない」「みんなと同じテーブルでご飯が食べられない」なども一見発達に問題がある行動ととらえられがちですが、その子なりのコーピング方法であるかもしれません。子どもを受けとめることは、子どもの言い分にそのまま従うことではなく、「今、この子はどんな気持ちでいるのだろう」と温かい気持ちで受け止めることです。病児保育は子どもにとって非日常な空間であり、ストレスがあることも理解したうえで、子どもの気持ちにじっくり、ゆっくり向きあっていける場でありたいと思います。

次世代に繋ぐために

副会長　高橋　広美
幼保連携型認定こども園すなはら　病後児保育室　とまと

近年都市部においても少子化の影響で、保育所の定員が充足しないことでの経営難や、次のリーダーが育っていなことから起きる、事業の継承が問題になって来ています。また、不適切保育が取り沙汰され、保育の質が問われてきました。理事長や経営者は考えることが山積です。先生方はこれらの問題をどのように乗り越えていきますか？

保育の質は各園で基準とするものが違うので点数化できないところがあります。各園が長年積み重ねた大切にしてきたことが、時代の変化に伴って、今後も継承して行けるのか不透明です。また、これまで子育て施設が整備されてきましたが、これからは整理される時代に入ります。特色ある保育内容や経営で生き残っていかなければなりません。反面、親にとっての便利さは子どもにとっては不便であることもあります。

組織力とは、互いが思い合って皆で協力し合う事です。人を手伝い気持ちを察してあげることです。まさしく非認知能力であり、これはお金では買うことができません。この組織力を向上させることが、事業が継承され、特色ある運営に繋がり質の良い保育が展開されていくのだと思います。保育所に併設された病後児保育は保育にとっても、運営にとっても大きな強みに成りえるでしょう。

この協議会に属する会員の皆様で、互いに知恵や工夫を出し合い支え合って、これからも起きるであろう困難を乗り越えて、次世代に使命と願いのバトンを渡すためにはなにが必要なのか、共に探ってまいりましょう。

感染症対策委員会

ポストコロナ時代の病児保育

感染症対策委員会　副会長 委員長　佐藤　勇
よいこの小児科さとう　病児保育室よいこのもり

2023年５月から新型コロナウイルス感染症は５類に分類され、約半年間の移行期を経て、通常の感染症と同じような扱いを受けるようになりました。しかしながら、病児保育の現場では、まだまだ特別な対応を行っていると思います。

2020年から始まった流行によって、一時的に突発性発疹以外の感染症が姿を潜め、その後、インフルエンザやRSの流行様式が大きく変わり、通常の流行とは時期を変えたり、同じ年に型の異なるウイルスの流行があったり、また、疫学的干渉がおこらず、数種類の疾患が同時に流行したりしました。当初は、預かり児の減少に施設運営で苦慮しましたが、その後次第に利用者はふえてきたものの、流行様式の変化に、皆様もかなりストレスを感じられたのではないでしょうか。冬に流行する疾患、夏に流行する疾患といった四季のある小児医療の風景が変わり、各種の疾患を同時に扱う場面もおおくなり、苦労されていると思います。

この間の感染症流行パターンの変化は、長期的には、新型コロナウイルス感染症というもう一つの周期的流行疾患を加えながら、従来の流行パターンに戻ってゆくという予想があります。新型コロナもいずれ病児保育の対象疾患となる可能性があります。８月時点で、全国の政令指定都市に対して行ったアンケートでは、市の方針を示せない所が多く、行政も困惑している中で、各施設に対応を任されている状況だと思います。鹿児島大会での施設長会議でも、少ないながらこの疾患の預かりを始めたところも出てきました。しかし、多くの施設では、まだ入室時のコロナ抗原検査を必須としていると思います。ここ1年のインフルエンザと新型コロナの流行状況を見ると、ほぼ交互に流行しており、新年には新型コロナの再度の流行が来ることも予想されます。今後の病児保育室での対応がおおきな課題となると思われ、委員会としても注視してゆきたいと考えています。

調査研究委員会

実績調査って知っていますか？

調査研究委員会　委員長　荒井　宏治
あらいこどもクリニック／眼科クリニック　病児保育室「きりん」

調査研究委員会は毎年、この年始の病児保育ニュースに実績調査のアンケート票を同封しています。皆さんの中には、施設長の先生から「協議会からこんなアンケート来ているけど、このへんの数字をいれておいてね。」と言われているかたがおられるしょう。そしてお忙しい中、印刷されたアンケートのコピーに、昨年の春に市に提出した報告書と自施設の預かり児台帳を照らし合わせて手書きで記入していることと思います。これでは何の目的でやらされているのかわからず、ただただめんどうくさいだけですよね。それでも何とか必要項目を書き込んで提出しても、後で自分たちが書いたデータがどのような結果になっているのかをよくわからない人が多いと思うのです。「詳しいことは病児保育研究誌に載っているので読んでください。」と言われても、病児保育研究誌は施設に一冊しか配布されないし、忙しい業務時間内ではじっくり読むことができないでいるのではないでしょうか。

調査研究委員会は、総会の後で委員会報告として15分ほどの時間をいただいて、参加いただいた先生に前年度の調査結果を報告して質問に応えています。実はこの報告会は施設長以外の方も出席することができます。調査研究委員会は、病児保育の主役は保育士の皆さんだと思っていますので、皆様もその会に出席して、「小さい子が多くてとても疲れる。」とか「自分たちの給与をあげてほしい。」、「負担にならないようにこのような工夫をしている」という現場の声を訴えて欲しいと思っています。昨年の会議では施設長様から経営に困窮する現状を伺い、協議会の調査研究委員会としてそのかたの代弁しようとシンポジウムで政府や議員のかたに発言をしました。

今後も少子化やwithコロナの状態が続くだろう中で、病児保育はさらに重要な事業であるべきと思っています。今年度は春に昨年度の実績調査だけではなく、今年度の実態調査も行う予定です。調査研究委員会としては、皆さま全体の病児保育の現状をもっと知って、子どもたちの成長や保護者様の子育てに役立てる病児保育なるようにがんばっていきたいと思います。

機関誌編集委員会

論文から蘇るもの

機関誌編集委員会　委員長　羽根　靖之
医療法人童心会　よいこ病児保育室

私ども機関誌編集員会では、投稿してくださった著者の皆様はもちろんのこと、査読に携わってくださった査読委員の皆様、そして、校正その他編集に携わってくださった皆様のおかげで、昨年で第14号まで出版することができました。しかし、その間に編集等でのミスなどもあり、本当にお恥ずかしいやら悔しい思いもして参りました。今後は編集業務に関して余裕を持ってミスのないように努力していきたい所存です。

ところで、余談ではありますが、先日、私は個人的にどうしても自身が書いた1984年の論文の中の画像が必要になったのですが、40年も前の資料は探しても自宅には見当たらず、しかし、メディカルオンラインを使って検索してその論文から画像を取り出すことできたのですが、40年ぶりに手にした論文には当時の自身の心境なども含めて論文への想いなどが蘇ってきました。論文は紙面上の記録だけではないのです。その中には執筆した頃の自身の置かれた状況や当時の心境までもが詰まっていて、論文と再会したときにそれらが蘇ってくるのです。

そして、機関誌の編集でも同様に、バックナンバーを見ていると編集に携わった当時のいろいろなことが蘇ってまいります。この号を手にした方はどういう思いで読まれたのかなという思いにもなります。機関誌には各著者の多くの想いが詰まった論文が掲載されています。著者自身の研究成果や主張を表現するというだけではなく、そこには著者のいろいろな思いも詰まってるんだなという思いでこれからは機関誌編集にも向き合っていきたい所存です。

資格認定委員会

みんな違って　みんないい！

資格認定委員会　委員長　永野　和子
みるく病児保育センター

あっという間に新年号の季節。

昨年も「病児保育専門士講習会」を開催し、この新年号が皆様の手に届く一週間後に「口頭試問」を開催する時期となっています。

コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、講習会には60名近い申し込みをいただきました。

コロナ禍も、講習会は開催してまいりましたが、ワークショップでグループワークが色々な規制をかけてしかできない、昼食時も前を向いて黙食、健康調査票の提出等々の制約の中で開催してきて、久しぶりのわいわいガヤガヤ笑いありの講習会でした。

病児保育専門士講習会では、基礎研修を理解したうえでの、医療・保育・看護・子どもの心理などを積みあげる座学をしていますが、それにプラスして他の施設の方たちとのグループワークをとても大切にしています。

これは、普段は当たり前として自施設で実践している病児保育を他の施設のやり方、考え方を知ることで「なるほど」「そうだよね」と自分たちの病児保育を振り返り、自施設の病児保育にプラスしていくことができるからです。

他の施設のやり方を聞き、学び、また、自施設ではどう取り入れれば「子どもたち」のためになるのか、安心安全に病児保育を提供できるのかを、その場で考え、色々な側面から病児保育を考えることができるのです。

みんなやり方が違っても、みんないい方向に持っていけるものです！

「子どもまん中」を考えていくと、きっと素敵な温かい「病児保育」が実践できていくのではないかと思っています。

皆様も、レポートと口頭試問を恐れず(笑)、ぜひ、病児保育専門士試験に挑戦してください！

あり方委員会

時代に即した病児保育像を求めて

あり方委員会　委員長　大川　洋二
大川こども＆内科クリニック　OCFC病児保育室うさぎのママ

あり方委員会の役割は日本の現状を踏まえ、病児にとって最もふさわしい保育環境を実現する為に病児保育制度を改善していくことです。日本の少子化問題の解決策の切り札としての役割がそこにあります。当委員会への問題提起は協議会会長からの諮問とあり方委員、理事、会員からの提案があります。昨年度は会長からの諮問はありませんでした。あり方委員会からの提案としては昨年度からの懸案である病児保育を病児から病的状態にある児童の保育に広げることです。

昨年の５月17日には成育基本法推進議員連盟（会長衆議院議員野田聖子）にてこども家庭庁開設にあたっての病児保育制度の抜本的改革を提案してきました。
その席上、病的状態にある児童とは感染症や外傷の子どもはもとより、慢性疾患の急性増悪期の回復期、医療的ケアー児、レスパイト、保護者の育児不安、愛着形成不全、不登園児、被虐待児または恐れのある児、児をめぐる環境が保育に適切ではない時にも預かれる病児保育の説明を行いその理解と実現をお願いしました。この病的状態の児を預かる病児保育については10月27日のフジTV、ノンストップでも紹介されました。

あり方委員会では新に解決すべき問題がある場合、臨時の専門委員を選任することを理事会にお願いして、問題点ごとに専門的な意見集約を行うことを考えております。会員の皆様からのご意見を広くお聞きしたいと考えております。

倫理委員会

倫理審査をお気軽に

倫理委員会　委員長　木野　稔
大阪旭こども病院　アリス病児保育室

当協議会では倫理委員会が設置されており、研究や実践発表の際の倫理審査申請を受け付けています。倫理審査申請の仕方が分からない、難しそう、面倒くさいと思われている方もおられると思います。そこで、協議会のホームページにその手順を掲載してもらっていますので紹介します。

協議会ホームページ、Memuから加盟施設を選んでください、その中の加盟施設向け申請書の最初に倫理審議申請書、倫理申請のためのチェックリスト、倫理審査についての項目が並んでいます。
かなり分かりやすくなっていると思いますのでどうぞご利用ください。病児保育では、終末期医療や遺伝子検査など生命倫理に関わることはほとんどありません。倫理的配慮として、個人情報が守られているかどうか、研究対象者に分かりやすく説明されているか、同意がなされているか同意撤回の機会があるか等が基本になります。本来は研究を始める前、発表する前に倫理審査を受けておくのが前提ですが、実践した結果が倫理的配慮に適合しているか分からない、学会発表したが論文にまとめたいので倫理申請しなおしたいなどの相談にも倫理委員会で対応したいと考えています。これまで、当委員会では条件付承認として各委員からのコメントを申請者にお返しして修正後に承認される場合が多かったです。経験豊かな委員から第三者的に内容を校閲してもらって、アドバイスを受けるのも醍醐味です。どうぞ、お気軽に倫理委員会をご利用ください。

広報委員会

アフターコロナにおける広報委員会活動 ～多くの仲間を求む！～

広報委員会　委員長　**藤本　保**
大分こども病院　キッズケアルーム

COVID-19はあらゆることや場面に改革をもたらしました。一堂に会しての集会が憚られる環境下、情報伝達の方法は格段に増えました。その制限のある中でも各ブロックの研修会が途切れることなく活発に続いていて、協議会ニュースに掲載する支部報告を拝読するたび、たいへん頼もしく喜ばしく思っていました。今後は一時中断した対面での会議や交流も増えてくるものと思われます。協議会ニュースは皆さまに情報をお伝えするために、紙面の工夫を重ねてまいります。どうか、情報やアイデアをお寄せください。

会員の皆さまの期待に添えるものにするには、様々な地域の、多様な意見を持った多くの委員が必要です。各ブロックから委員の推薦をお願いします。

委員会の充実なくして「広報」の充実はあり得ません。今までやってきたことは継続し、さらに新しいものを継ぎ足して行きたいと目標を掲げます。活動の幅を広げるには、活動する「ヒト」が必要です。皆様、本業で忙しく、あれもこれもそれもは到底できないとお感じかもしれません。しかし、得意とすることなら少しならできるのではないでしょうか。委員会の活性化は有意の「ヒト」が集まらなければ達成できません。多くの仲間が必要なのです。ほんのちょっとなら力を貸してもよいと思ってくださる方、ぜひ委員になってください。

現在、広報委員会の主な活動は、年5回の協議会ニュース発行、日本小児科学会をはじめ小児科関連のイベントで「病児保育とは」を伝える広報ブースの展開、ホームページの運営、Facebookの運用、メールマガジン発行です。そして会員情報管理システムの窓口も担っています。さらに「こんなこともできるのでは？」というアイデアがある方は、どうぞそのアイデアを委員会に届けてほしいと思います。

今年は委員の拡充を行い、委員会の活性化を目指したいと念じています。

よろしくお願い申し上げます。

安全対策委員会

安全対策委員会の新委員長としてのご挨拶

安全対策委員会　委員長　**保坂　泰介**
保坂小児クリニック　枚方病児保育室くるみ

2023年の病児保育協議会総会を機に、安全対策委員会委員長の任を、前委員長の米倉順孝先生から引き継ぎました、保坂泰介と申します。まずは自己紹介ですが、私は平成２年に医学部を卒業後、整形外科医として仕事をしておりました。その後自身が子を持ち親となって、恥ずかしながら小児医療や病児保育の重要性をようやく認識するようになりました。その後高齢となった母親が運営する小児科クリニックや病児保育の将来が気になり始め、このまま整形外科勤務医を続けるより、実家の医院を継承して病児保育事業を存続させる方が、今後の医者人生においてより大きな社会貢献になるのではないかと考えるに至りました。そして整形外科医のキャリアに終止符を打ち、平成23年４月から、大阪旭こども病院（当時は中野こども病院）の木野稔先生のもとで小児医療を学び、平成27年４月に実家の医院を継承して、現在に至ります。開業後の平成28年に50歳超で受験した小児科専門医を取得し、ようやく一人前の小児科医となれたように感じています。

そのように医師としては特殊なキャリアなのですが、安全対策委員会には、平成30年秋から、メンバーとして参加することになりました。それから現在まで、委員会の一員として、「事例から考える安全対策ハンドブック」の新規発刊や、「病児保育室の事故防止ガイドライン」の改訂といった、大きな作業に関わらせていただきました。この二つの作業を通して、当初全く無知であった、病児保育の安全対策の考え方につき、理解を深めることができました。これらの大変な作業を、強いリーダーシップを発揮して成し遂げた前委員長の米倉先生には、ただただ尊敬の念しかありません。

そんな中、私が委員長の後任に指名され、本当に不安ばかりが先に立つのですが、就任したからには、全身全霊で職責を果たしていきたいと考えています。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

研修委員会

研修を進めましょう

研修委員会　委員長　横井　透
横井小児科内科医院　病児保育室「こりすの里」

研修委員会が担当する仕事は全国の病児保育室の質の向上です。具体的には学びたい保育士さんや看護師さんの援助を行っていきます。

病児保育室に入職して間もない職員の皆様には基礎研修を受けて頂きたいと考えます。ホームページに掲載されている基礎研修のビデオで研修してください。このビデオの理解は病児保育専門士資格取得の条件となっています。基礎研修テキストを参照しながら見て頂けると、より理解が深まると思います。不明な点は病児保育専門士、先輩の職員や医師に聞いて疑問を解決しましょう。施設長の先生方には、基礎研修ビデオを職員の方に紹介して、視聴できるようなご配慮をお願いいたします。研修委員会では今年このビデオの改訂を行っていく予定です。

また、第34回全国病児保育研究大会in金沢では、ステップアップ研修を担当いたします。ステップアップ研修では、皆様が病児保育の現場で実際に対応しなければならない状況にある病児の症例を提示し、アセスメントを行った上で保育看護計画をたてて頂きます。提示された症例についてグループ内の皆さんで話し合って、いろいろな見方や考え方を出していただきます。参加者一人一人の保育看護の力の向上につながれば幸いです。

今年は新しい試みとして、Zoomを利用してオンラインでステップアップ研修を行います。すでにニュースレターでご存知かもしれませんが、30名の定員で２月18日に開催いたします。https://stepup240218.peatix.com/からお申し込みください。うまくいくようでしたら、多くの方が研修を受けられるように回数を増やしていきたいと考えています。

研修委員会では、すべての病児保育室で安全に病児保育を行っていけるように、全国の病児保育施設職員の皆様の研修のお役に立ちたいと考えています。

保育園型委員会

保育園型委員会の新委員長としてのご挨拶

保育園型委員会　委員長　森　博
あおぞら第２保育園　病後児保育室「さくらんぼ」

新年明けましておめでとうございます。昨年の総会より前委員長の西倉　美奈さんから引継ぎを受け、新たに委員長に就任しました。森　博です。皆様どうぞよろしくお願い致します。私が勤務する保育園は、神奈川県横浜市の中で認可保育園として2000年に開設し、同時に病後児保育室『さくらんぼ』や子育て支援センター『いちご畑』(神奈川区私立常設園)を併設しオープンしました。

これまで横浜市の病児病後児保育室は１か所もありませんでしたが、先駆けとして、病後児保育事業が３区３か所で2000年から始まりました。そして、徐々に広がり、現在では市内18区に病児保育室25ヵ所、病後児保育室４ヵ所で運営がされ利用者から大変喜ばれています。私は理事になり３年目ですが、保育園型委員会の委員長に選任されました。委員会としては毎年の研究大会で、保育園型委員会によるセミナーを開設し、大勢の方に参加を頂いております。昨年の鹿児島大会ではグループワーク方式で開催し、活発なディスカッションをしていただき大好評でした。そして、最後にグループワーク毎に討議内容を発表してもらい、有意義な時間を共有することが出来ました。参加者からは是非、次回の大会でも、継続してセミナーをやって欲しいとの意見が多数出されました。

その後の鹿児島大会以降の活動としては、保育園型委員会をzoom開催し、今年度の金沢大会に向けた議論を昨年の11月より行い、本年１月下旬には２回目となる委員会を開催予定です。何かと不慣れな委員長として皆様にご迷惑をお掛けする事がただあると思いますが、ご指導ご鞭撻を頂きながら行って行きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

例年に倣い、新年初の協議会ニュースは会長はじめ各委員会の委員長による新たな年への抱負を掲載しています。中には委員長交代が行われた委員会もありますので新委員長の意気込みにも触れていただけることでしょう。

年明けと同時に病児保育施設実績調査が始まります。データは病児保育施設の実態を分析して課題を掘り起こし、今後の病児保育のあり方を探る重要な資料となります。調査依頼を今号に同封しています。ぜひご協力をお願いします。

広報委員会　委員長　藤本　保

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人　全国病児保育協議会　広報委員会　　担当：藤　本　　保

〒870-0943　大分県大分市片島83-7　大分こども病院　FAX.097-568-2970

Email：byouji@oita-kodomo.jp